９脳の冒険（養老孟司）

　そのときになってみなければ、わからない。そういうことは、たくさんある。

　ガンの患者さんに、あなたはガンですと言うかどうか。言われる当人だって、言われてみるまでは、言われた後の気持ちはわかるまい。ガックリするか、せいいっぱい生きようと思うか。それが（　Ａ　）わかるわけではない。ガンの告知の是非は、そう思えば、簡単には決められまい。

　いまの時代ほど、世間が「［　Ⅰ　］」時代はないであろう。新聞は（　Ｂ　）自分で読まなければならないが、テレビだったら、スイッチを入れておきさえすればニュースが勝手に伝わってくる。ご丁寧に、本当らしい映像まで伝えられる。テレビの画面上でしか知らないものを、現実を知ったと錯覚する。これを疑似現実と呼ぶ人があることは、ご存じのとおり。

　しかし、「生きている」というのは、「やってみなけりゃわからない」ことを意味する。それはじつは、だれでも知っていることであろう。はじめから答えがわかっていたのでは、面白くもおかしくもない。

　（　Ｃ　）、やってみるまではわからないこと、それをあえて行うには勇気が要る。①この徳目が、教育から消えて何年になるであろうか。

　最近亡くなられた、栄光学園のグスタフ・フォス師は、私の中学・高校時代の校長先生である。先生は毎月曜の朝、全校生徒の前で訓示をされる習慣だった。（　Ｄ　）上手とは言えぬ日本語で、若者には苦痛とも思われる長話をされたから、同級生の某氏などは、脳貧血を起こして②訓示中にバッタリ倒れるのが常だった。ただこの訓示の中でいまでも印象に残ることがある。それは「勇気をもって」という口癖である。

　こどもにとっては、なにごとであれ、はじめての経験である。③すべてのこどもは、その「はじめて」を行う勇気を持つ。だからこどもは生き生きとしている。その勇気が失われるにつれ、人は一見生きながら、しだいに「死んで」いくのである。④死体だけが死人ではない。

問１　（　）Ａ～Ｄに入ることばとして、最も適当なものをそれぞれ次から選び、記号で答えよ。（同じことばは二度使わない。）

ア　けっして　　イ　少なくとも　　ウ　あらかじめ　　エ　ただし

Ａ＝（　　　）　　Ｂ＝（　　　）　　Ｃ＝（　　　）　　Ｄ＝（　　　）

問２　［　］Ⅰに入ることばとして、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　わかる　　イ　わからない　　ウ　おもしろい

問３　―線部①が指す事柄を文中から二字で抜き出して答えよ。

〔　　　 　〕

問４　―線部②はどんなことを裏付けるための表現か。文中から六字で抜き出して答えよ。

〔　　 　　　　〕

問５　―線部③について、「すべてのこども」と言えるのはなぜか。文中のことばを使って答えよ。

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 〕

問６　―線部④について、筆者はどんな人を「死人」だと述べているか。文中のことばを使って、一〇字以内で答えよ。

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　 〕

問７　筆者が上の文章で伝えようとしたのは、どのようなことか。最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　勇気を持つ大切さが現代の教育では重視されていないこと。

イ　メディアの情報だけで知った気になるのは危険であること。

ウ　やってみるまでわからないことを行う勇気を持つこと。

【解答】

問１　Ａ＝ウ　Ｂ＝イ　Ｃ＝エ　Ｄ＝ア

問２　ア

問３　勇気

問４　長話をされた

問５（例）すべてのこどもが、はじめての経験をしながら生きているから。

問６（例）勇気を失った人。（８字）

問７　ウ

ポイント

問６　どうなるかわからない、「はじめて」を行う勇気が失われるにつれ、人はしだいに「死んで」いくと、筆者はいう。

問７　そのときになってみなければ、わからないことは、たくさんある。いや、やってみるまでわからないことをやるのが人生だというのが、本文の骨子。